saitama story vol.2

出会いたいひと、暮らしたい場所

「出会いたいひと、暮らしたい場所」

暮らす場所を選ぶとき、
あなたは何を一番に優先しますか？

豊かな自然のあるところ、
子育て環境が整っているところ、
理想の住まいが手に入るところ。
きっと人それぞれに理想の暮らしがあると思います。

でも、一番大切なことって
一緒に暮らしを楽しめる仲間がいることかもしれません。

埼玉には、理想の暮らしを叶えながら、
仲間と繋がってともに暮らしを楽しんでいる人たちが
たくさんいます。

もし埼玉の暮らしに興味がわいたら
ここで紹介するまちと人々を、ぜひ訪ねてみてください。
きっと、あなたにとっても居心地のいい場所と仲間が
見つかるはずです。

contents

2 特別企画
saitama story編集部
埼玉が大好きなメンバーが
あらためて埼玉の魅力を
語ってみた

4 テーマ1
埼玉の自然と暮らす

8 テーマ2
まちで子どもを育てる

11 コラム
商店街で子どもを育てる

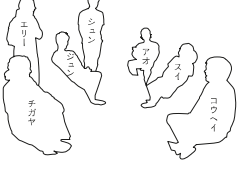
12 テーマ3
人の集まる「場」をつくる

16 pickup① 比企エリア
いま注目の移住者と新たなスポット

18 pickup② 秩父エリア
地域密着コミュニティラジオのオススメスポット

20 コラム
子どもと、木工と、古民家暮らし

21 移住information



saitama
story
編集部

埼玉が大好きなメンバーが

あらためて埼玉の魅力を語ってみた

埼玉に移住してきたり、地元だったり、埼玉が好きだったり。
住んでいる場所も、活動している場所も、分野も仕事も、
それぞれ違ったメンバーが集まり、埼玉の楽しみ方や魅力を発信する
「埼玉ものがたり」編集部を立ち上げました。

埼玉県内各地の地域や暮らし、日常にある面白いヒトモノコトなど
それぞれの視点で、埼玉の魅力について考えてみました。

地域の中で人が集う「場」を営む編集メンバー

スイ　今回は、埼玉ものがたり編集部メンバーで埼玉の魅力を語っていきたいと思います！　改めてみなさんの活動について教えてください。

エリー　2年前に東京からときがわ町に移住して、夫婦で〝野あそび夫婦〟というユニットを組み、「キャンプ民泊」をテーマに初心者でも楽しめる小さなキャンプ場を運営しています。ときがわ町は東京から60分の里山で、まちの雰囲気に惹かれて移住しました。

チガヤ　私は埼玉県南部の川口市から、同じ県内でも最北部の本庄市に移住して2年が経ちます。建築やデザインの仕事、コーヒーイベントの企画などをしています。今、築100年以上の元料亭をリノベーションしたカフェやコワーキングスペースのオープンに向けて準備中です。

ジュン　僕は、妻の地元が本庄市で「嫁ターン」をしました。動画制作と地域のデータ分析をするコンサルティングをしながら、チガヤさんと共に本庄デパートメントの活動にも携わっています。

コウヘイ　私は5年前から、飯能市でシェアアトリエ「AKAI Factory」の運営をしています。地元のクリエイターやアーティストなどを発掘して対外的に作品の発信をするほか、地元メンバー5人で株式会社Akinai（あきない）を立ち上げ、まちづくりのひとつとして「Bookmark」というシェアオフィスの運営もしています。

スイ　ユニークなメンバーで構成される編集部ですが、埼玉県に住むきっかけは何だったのでしょうか？　実際に暮らしてみて、どうですか？

エリー　都心部から通える範囲で自然の多い場所を探していました。そこで「ときがわ町」をネットで見つけて、ひらがなでかわいい名前のまちだなって思って（笑）。実際に遊びに行くと個人経営の面白いお店もあって、地域の人たちは気持ちの良い人たちばかりで。初めての移住には程よい場所だと思ったんです。

アオ　編集部でいろんな地域に行く度に思うのは、同じ県内でもそれぞれに地域性があるなということですね。県内で移住できるくらい、違った暮らしのイメージが湧く場所が多いし、常に新鮮な感じで暮らせますね。

チャレンジを始めるなら埼玉

スイ　地域の中に「場」があることで、いろんな人と出会う機会もあると思いますが、どんな動きが生まれていますか？　実際に活動をしてみて感じていることを教えてください。

コウヘイ　「AKAI Factory」が名刺代わりになって、県内外に多くの仲間ができました。都内からのアクセスもよくてバランスが良いのが埼玉だな、という印象ですね。チャレンジしやすいし、やりたいことをやり続けられるというのは埼玉の良さなのかなと思います。

チガヤ　それぞれ何かやりたいと行動する人、何かしたい人が周囲にたくさんいて、地域に開かれた場所があるのは大事だと思いますね。仲間を募るときにも、「場」があることで良い関係を築くことにもつながります。

コウヘイ　食べ物や遊ぶ場所、自然など、いろんなものがバランスよくあるし、暮らしの質を高めるには埼玉って良い場所だと思いますね。「なにもない」と言われる埼玉だけど、何か新しいことを始めるにはチャレンジしやすい。まちの中を色々使える度量の大きさみたいなものを埼玉には感じますね。

アオ　僕らは「無理をしない移住をしよう」をモットーに仕事を掛け持ちしてグラデーションのある生活をしていますよ。思い切って生活を変えることに躊躇してしまう人こそ、埼玉で一度チャレンジしてみると良いと思いますね。

エリー　都心から近く「無理なら戻ればいい」って思える場所で生活できるので気持ちも楽にいられます。

チガヤ　子育てをするようになって食べ物などを意識し始め、誰が作っているか、誰から買うかという顔が見える重要性を感じたときに、食べ物ひとつとっても本物が身近にあるっていうのは埼玉に対する驚きでもあったかな（笑）。

ジュン　人のつながりを感じられるって「快適な混雑」があるからだと思うんですよね。混みすぎても辛いし、少なくても辛い。人の距離感が程よいというのが、埼玉の魅力としてあるんだろうと思いますね。

スイ　どのまちにも人が集まる場があって、地域の人はもちろん、先輩移住者に話が聞けるのが埼玉の良いところ。何かにチャレンジするのにはぴったりの環境だと思います。

アオ
青木達也／野あそび夫婦。2019年にときがわ町へ移住。夫婦揃ってアウトドア好きが高じ、自宅の庭を活用してキャンプ民泊「NONIWA」を夫婦で営む。

エリー
青木江梨子／野あそび夫婦。達也さんと同じく、2019年にときがわ町へ移住。「NONIWA」では、初心者でも気軽に楽しくキャンプが体験できる。

コウヘイ
赤井恒平／AKAI Factory。飯能市の市街地で築80年の工場跡をリノベーションしたシェアアトリエ「AKAI Factory」を運営。飯能市出身で、7人の中で唯一の地元民。

スイ
須井直子／TURNS。ローカルメディア「TURNS」の企画コーディネーター。仕事で埼玉県に携わったことがきっかけで埼玉の虜になり、埼玉に通い続けている。

シュン
竹内俊／TURNS。ローカルメディア「TURNS」の企画営業マンとして、全国の移住やまちづくりのプロモーションに関わる。さいたま市在住。

チガヤ
榎本千賀耶／本庄デパートメント。建築士、デザイナー、コーヒー屋など様々な顔をもつ。2019年に本庄市へ移住し、商店街の長屋暮らしで子育て満喫中。

ジュン
早川純／本庄デパートメント。公務員を経て独立。2021年6月に榎本さんと共に本庄デパートメントを設立し、新たな拠点づくりに取り組んでいる。

青木達也さん
江梨子さん

theme 1
ときがわ町

埼玉の自然と暮らす

都心からもすぐのアクセスで、こんなにも心魅かれる自然がある埼玉県。仕事や趣味など、自分たちのライフスタイルを最大限に楽しむ人たちを紹介！

まわりを山々に囲まれ、絵に描いたような田園風景と清流が広がる、ときがわ町。ほどよい里山には、自分らしく生きる移住者が続々と増えています。

●東京から車で約60分

まちをアウトドアタウンに！新たな目標に二人で挑戦

ときがわ町に2019年に移住し、キャンプ民泊NONIWAを営む青木夫妻。ご主人の達也さんは、以前は県内で会社員を、妻の江梨子さんは都内で映像の仕事をしていました。多忙な日々の中で、ライフスタイルを見つめ直したときに、江梨子さんがときがわ町で農家民宿を経営する金子さんの存在を知り、相談にのってもらうように。それがきっかけで〝キャンプ民泊〟のアイデアが浮かびました。

「ここをオープンしたときには、主なお客さんは知り合いでしたが、今では

キャンプ民泊に興味を持って訪れたファミリーの方、ソロキャンプの方と、多くの方に施設を利用してもらっています」と江梨子さん。女性のソロキャンパーも増え、1人でも安心して泊まれる環境が人気となっています。

また、この2年間でキャンプ民泊以外にも、アウトドア系の雑誌やCM撮影のコーディネートなどの仕事も増えてきました。加えて地元の企業とコラボレーションをしたオリジナルのアウトドア商品の開発も行っています。隣りまちの越生町の酒造会社とキャンプ向けのカップ酒を一緒に作るなど、地元や地域の人と繋がり、新たな分野へチャレンジしています。最近では町の観光協会から依頼され、青木夫妻の目線で切り取った〝ときがわ町の魅力〟をまとめたPR動画なども制作しています。二人は「ときがわ町をアウトドアタウンにしたい」という目標を移住後に持つようになり、今では2人の活動を知り、ときがわ町でキャンプ場を始めたい人からの相談が少しずつ増えてきたことに喜びを感じていると言います。

人と人との繋がりを大切にときがわ町でさらなる活躍を

ときがわ町への移住希望者から相談を受けた際には、まち全体を本屋に見たて、「本を楽しむ人」が集う〝本屋ときがわ町〟という場を紹介しています。「参加すると町の雰囲気が分かり、色々な人を紹介してもらうことで、具体的に移住に向けての準備や心構えができると思います」と達也さん。移住後、さまざまな人と繋がることで自分たちの地盤を固め、新しい仕事にも積極的に挑戦しています。

レンタル用のキャンプ用品。古民家を改装したスペースの居心地は抜群！

「地域との関わりを大切にしたい」と語る青木夫妻。

キャンプ民泊 NONIWA
https://noniwa.jp

Contact

NONIWA 青木夫妻がお世話になった人

2人が移住を考えはじめた頃から今に至るまで、お世話になった頼れるときがわ町の先輩移住者を紹介します。

成功体験を積み重ねて
理想の暮らしに

農家民宿 楽屋
金子さん

穏やかな日々を求めてときがわ町に

大学卒業後、サラリーマンや調理師として働いてきた金子さん。さまざまな経験を経て、37歳のときにときがわ町へやってきました。

「海外にいたときに触れた農ある暮らし方が自分の中で印象に残っていて。穏やかな暮らしがしたいと思い、移住しました」そして古民家を借り、農家民宿をスタート。単なる体験ではなく、自給自足の農ある暮らしに触れられる宿として営んでいます。

「移転して新しいところにやってきましたが、以前と変わらず農家として野菜を出荷することに力を入れています」。夏はトマトやなす、かぼちゃ。冬はにんじんやケールなどをメインに有機栽培で野菜作りをしています。ときがわ町は温かい人が多く、すぐに受け入れてもらい、たくさんの人に良くしてもらっていると言います。

民宿への宿泊が出会いのきっかけ

青木夫妻とは民宿に2人が泊まりにきたことがきっかけで出会いました。「移住のことをいろいろと聞きました」と青木達也さんが言うように、農家民宿に泊まり、ざっくばらんに話をしたことでキャンプ民泊のヒントは生まれました。「豊かな生活をしたいのなら、一気にいろいろなことをするのではなく、小さな成功体験を積み重ねていく方が、上手く物事が運んでいくと思いますよ」と金子さんは笑顔で語ってくれました。

農家民宿 楽屋（らくや）
比企郡ときがわ町
日影1638-5
https://www.rakuya-inn.com

Contact

移住先で起業を
目指すこともできる！

ときがわ
カンパニー
合同会社
関根さん

起業したい人のサポートやイベントの企画・運営、Uターン支援などを行う「ときがわカンパニー」代表の関根さん。自身も2009年にときがわ町へ移住し、今では地域のために尽力しています。青木夫妻は関根さんのブログを見て、比企起業塾へ参加したことで、今の活躍に繋がる土台を作ってもらったと言います。

「オンラインでいろいろなことができるようになった今、東京に程よく近いこの場所は起業するのにもとてもいいところだと思っています。ビジネスを学びたい人はウエルカムです！」と話す関根さん。地域での起業を目指す人の強い味方です。

比企郡ときがわ町五明1083-1
https://tokigawa-company.com

Contact

新しい人を受け入れてくれる
地域の人たちに感動！

こぶたの
しっぽ
高見さん

町で人気の手作りソーセージとパンのお店「こぶたのしっぽ」を経営する高見さんもときがわ町に移住し、起業した一人。明るくて元気なまちに魅了され、2016年に移住して以来、まちの人たちのフレンドリーな姿勢に支えられていると言います。

青木夫妻とはNONIWAオープンの宣伝カードをお店に置いたことからつきあいが始まり、今ではアウトドア商品の意見交換などをして親交を深めています。「自分が越してきたときにも親切にしてもらったので、移住してくる人に同じようにしたいです」と高見さん。温かい人が多いときがわ町は、移住者にも優しいまちのようです。

比企郡ときがわ町日影903-1
https://shop.kobutanoshippo.com

Contact

移住先で自分なりの
スタイルを見つけよう

ときがわ
ブルワリー
小堀さん

「ときがわブルワリー」を起業し、清涼飲料水を製造・販売する小堀さん。特産の柚子を使ったジュースが人気です。

「地元の方たちとも良い関係を築けていると思います」と言うように、柚子農家をはじめ、多くの人と関わりながら仕事をしています。

青木夫妻とも柚子搾り会で出会い、仲良くなったそう。小堀さんがクラフトコーラを製造していたことからスパイスについての相談を受け、NONIWAで販売するホットワインミックスを一緒に開発することに。「移住のスタイルはいろいろ。自分のやりたいことを実現できる環境が魅力ですね」と小堀さん。

比企郡ときがわ町大野529
https://www.tokigawa.biz

Contact

theme 2
横瀬町

まちで子どもを育てる

横瀬町にあるタテノイト。まちの人に応援され、2020年からスタートし、自然豊かな子育ての場として注目されています。

たくさんの絵本に囲まれた心地よいカフェが始まり

地球惑星科学の研究者だった舘野さん夫妻。二人は神奈川、鳥取、茨城など、全国のさまざまなところで研究職として働いてきました。そして、新たに事業を始める場、子育てをする場として妻の春香さんの実家がある横瀬町にやってきました。横瀬町を選んだ決め手は自然豊かな環境はもちろん、役場の方や町の人が親切だったこと。そして若い人やクリエイターがたくさん集まっていて一緒に何かができそうだと感じたことが大きかったと言います。

今、子どもたちに関わる様々な活動をしている「タテノイト」。運営している場所は、元々は春香さんの実家の機械工場があった場所。その一部を素敵にリノベーションして、2019年12月に親子でゆっくりお気に入りの絵本を見つけられる場所を目指し、「えほんカフェ」をオープンしました。2021年の〝キッズデザイン協議会会長賞〟を受賞したえほんカフェは、木の温かさとたくさんの光が差し込む、

「日本一チャレンジしやすい町」を掲げ、都心からも多くの移住者や関係人口を生み出している横瀬町。まちの自然環境やフィールドを活かして、次々と新たな挑戦が生まれています。

●東京から車で約90分
●池袋駅から横瀬駅まで特急列車で約80分

とにかく絵本が大好きだというお二人。絵本とともに過ごすカフェタイムは、大人にとってもすてきな時間。

まるでひなたのような場所。ここで絵本を手に取り、読み聞かせをすることで、読み手と聞き手が心を通わせ、温もりあふれる時間を過ごしてほしいという思いからこのカフェは始まったと言います。

「コミュニケーションツールとして絵本を使ってほしいなと思っています。今は月に1度、午後のみのオープンですが、地元の方だけではなく、いろいろな方がオープンの日を楽しみに、足を運んでくれます」と春香さん。カフェはお茶を飲みながらのんびり絵本が楽しめることから地元の人だけでなく、町外からも多くの人がやってくる、人気のスポットになっているようです。

森のようちえんの運営とそこでの新たな出会い

えほんカフェは平日、舘野さん夫妻が運営する「認可外保育施設 森のようちえん」の園舎として使われています。園の周りには約300坪の園庭があり、さらにその周りには川や棚田、武甲山などの山々が広がり、横瀬町のすべてが子どもたちの自由に活動する場となっています。自然の持つ大きなエネルギーを感じ、子どもたちが遊びに集中できる環境は、横瀬町の大きな魅力のひとつでもあります。秩父市で助産院を営む宮原さんは、お子さんを森のようちえんに通わせています。「カフェができたときに訪ねてきました。そこで園の雰囲気を知り、子どもを通わせることにしました。うちの子は森のようちえんに通うようになってから、自由に自分らしくやっているように感じています」と宮原さん。親から見るとちょっぴり優等生タイプだったお子さんは、今では自分の主張ができるようになり、のびのびと日々を過ごしているそう。そういった部分を見ていると、改めて子どもの成長を感じると言います。

「育てるというのはおこがましいなと思っています。子どもたちと私たちはいつでも対等な関係で、子どもたちには最大限の自由があると思っています」と繁彦さん。園ではそれぞれの子どもの個性に寄り添い、その子らしさを大切にする保育をしています。外に広がる自然の中に出かけ、園内では絵本に触れ、お昼には栄養たっぷりの給食を子どもたちの好きなタイミングで食べて、それぞれが楽しく1日を過ごしています。

子育ての選択肢が広がった舘野さんの森のようちえん

「このような教育施設が、ここ横瀬にできたことを、町として大変うれしく思っています」と言うのは、横瀬町役場の田端さん。新しい働き方が普及し、二拠点生活など暮らし方の幅が広がったことで、横瀬町にも若い子育て世代からの移住の問い合わせが多くきています。

今、横瀬町にある公立の保育園と私立のこども園の2園の他に、舘野さんが開園した〝森のようちえん〟という新しい形の子育ての場所も選択できるようになったことをとてもありがたいと感じているそうです。

「いつ来ても子どもは元気いっぱいですし、良い顔をして走り回っている様子を見ると、改めてこのような場所が

機械工場をリノベーションした居心地の良い空間。

タテノイトのロゴマーク。線と点はモールス信号で、「タテノイト」と表記されています。

横瀬町のスーパー公務員！ 様々な企画を実現させてきた田端さん。

できて良かったと心から思います」と田端さん。まちに子育てに関連する施設が充実していると、子育て世代に移住を勧めるときにも説得力のある話ができるのだと言います。

現在、まちでは小学校に新しい校舎を建てており、子どもたちを自然の中で育てる環境は今後さらに整っていくことになるのだそう。豊かな自然を生かして、子どもたちが自分らしく生きていくことができる場所を増やしていきたいと行政やまちの人たちも考えています。

秩父をとことん楽しむジオツアーも開催

舘野さん夫妻はこれまでの職歴を活かして、横瀬町でジオツアーも開催しています。ジオツアーは、オンラインでの授業と自然を体験するフィールドワークをセットにしたものなど、形式は様々です。例えば、川で水遊びをした後に、そこで拾った石を分類して岩石標本を作るといった、知的好奇心を刺激する企画など、親子で一緒に楽しめるツアーを開催しています。

このようなイベントを行うとき、田端さんから意見をもらうことがあるのだと言います。田端さんは横瀬町を元気にするための取り組みの仕掛け人でもあり、舘野さんとまちの様々な人を繋げてくれる人でもあるのです。

横瀬町は子育て世代にぴったりの住みやすい町

横瀬町には様々なことにチャレンジしている人がいて、とても刺激的だと話す繁彦さん。山小屋を建てて暮らしている人やエミューを飼っている人など、独自の発想で自然を活かして新しいことにチャレンジしている人も多いのです。「『こういうものがあるといいな』と思っていることを誰かが始めるまちという印象でしょうか」と繁彦さん。豊かな自然があり、子どもたちはおもちゃがなくても、自然の中でいくらでも自由に遊べる環境で健やかに過ごしています。

役場の人をはじめ、横瀬町の地域おこし協力隊の方、さらにまちの様々な人が移住してきた人を応援してくれる、横瀬町にはそういった大らかさがあると言います。懐が深く、ゆとりのある横瀬町は子育て世代にはとても住みやすいまちだと舘野さん夫妻は感じています。そしてその雰囲気そのものが、移住先としての横瀬町の魅力になっていると語ってくれました。

「女性の悩みを相談する場所はとても大切」と話す宮原さん。

タテノイトでお話をうかがった人

田端将伸さん

横瀬町生まれ横瀬育ち。高校卒業後、横瀬町役場に勤務。税務担当、財政担当、観光担当を経て、現在まち経営課で民間・団体等との新しい関係性を築くための仕組み、官民連携（通称：よこらぼ）を担当。

Contact

宮原まりさん

おかのうえ助産院、助産師。病院勤務、青年海外協力隊派遣を経て結婚・出産。クリニックに勤務しながら開業。母乳育児相談、夫婦のパートナーシップ相談、性教育にも取り組む。

Contact

舘野繁彦さん　春香さん

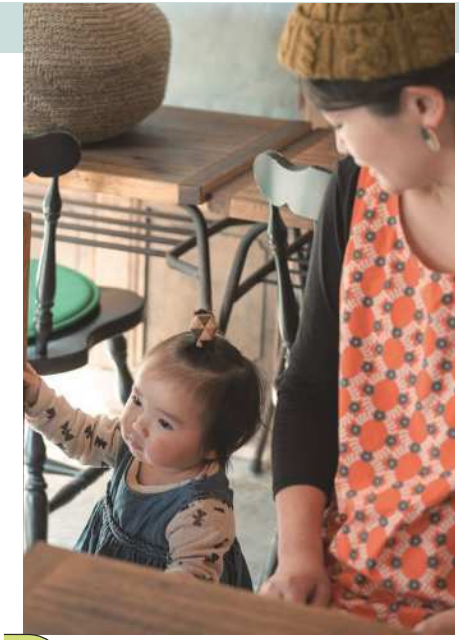
地球惑星科学の研究者から保育士へ。横瀬町に移住し、認可外保育施設タテノイトを運営。2022年1月より小中学生を対象にした「子ども第三の居場所」事業もスタート予定。

Contact

column

商店街で子どもを育てる

文・板本千賀耶



本庄市

榎本千賀耶

本庄市と連携し移住をサポートする団体「本庄デパートメント」を設立。2019年本庄市に移住。古い建物をリノベーションし、家族3人で暮らしている。

移住することで視点が変わり暮らし方が変化していく。

本庄市の古い商店街にある、築80年の長屋を家族でリノベーションしながら暮らし始めて2年が経ちました。本庄市に来てから生まれた1歳の娘は、まちの人たちからたくさんの愛を注がれてすくすく育っています。

本庄市に移住して、一番に変化したこと。それはきっと、食に対する価値観だと思っています。家に帰ると野菜が土間に置いてあったり、向かいのお寿司屋さんがおやつをくれたり。イチジクをたくさんお裾分けしてもらった時はとても嬉しかったです（笑）。え？　そんなこと？と言われそうですが、きちんと美味しいものを食べる、という意識が前より強くなった気がしています。

例えば、野菜はスーパーで買うものから、頂きものか、直売所や八百屋さんで買うものに変化しました。ちなみに、娘の離乳食は野菜だけでなく、お米は旦那の両親が育ててくれたもの、うどんは近所のおじいちゃんが営む製麺所、お豆腐は近所の創業１００年の手作りのお豆腐店、お肉も豚が丸々冷蔵庫で何頭も吊るされているような、商店街のお肉屋さんから。気がついたらそんな食生活が当たり前になっていました。誰が作った、誰から買った、が目に見える安心感。商店街に移住したことで「誰から買うか」の視点が変わり、そこから必然的に食べるものが変わっていったんです。環境で暮らし方はいくらでも変わる。それが移住することなんじゃないかなと、最近は思っています。

いただいたイチヂクはとても美味しくて、子供も大喜びでした。

theme 3
北本市

人の集まる「場」をつくる

自分たちが暮らすまちをもっと楽しく！
人々がつながる「場」、増えています。

首都圏近郊のベッドタウンでありながら、雑木林や畑、里山などの自然が交わる北本市。近年、若者たちが空き店舗や団地を再生し、官民連携の場づくりを仕掛けています。

●東京駅から北本駅まで電車で約50分

北本市は、
シティプロモーションに
力をいれています

北本の魅力を行政と一緒に発信

●暮らしの編集室

北本市で「暮らしながら楽しめる」まちを作っていくために、観光協会の職員やカメラマンなどの地元の若手メンバーが集まり生まれたチームが「暮らしの編集室」です。メンバーは専門性を活かし、北本市の魅力を伝える活動に力を注いでいます。

暮らしの編集室が立ち上がったのは2019年。最初は中心市街地の活性化を目的としていましたが、同年、市に〝シティプロモーション〟担当が誕生すると、20～40歳代の子育て世代へ、まちに愛着を持って住み続けてもらうためのPRを一緒に行うようになりました。

市民に配布する冊子は洗練されたデザインで新しいまちのあり方を伝えます。

都内からほど近い住宅地でありながら、畑や多くの自然と触れあって自分らしく暮らせるこのまちの魅力を伝えるため生まれたコンセプトが「&green」。このコンセプトを軸に、おしゃれで役立つ冊子を作り、市内の20～40歳代の子育て世代に配布したり、屋外マーケットの開催や公設民営のカフェを作るなど、市と暮らしの編集室が連携し、多種多様な試みを行っています。

また、人と人が繋がる拠点づくりのために、市が実施しているふるさと納税型のクラウドファンディングの仕組みを利用し、シェアスペース「ケルン」や北本団地のジャズ喫茶「中庭」を生み出すための資金を集める活動にも行政とチャレンジ。暮らしの編集室を中心に市の内外にその魅力を発信しています。

北本市役所市長公室
シティプロモーション・
広報担当

荒井菜彩季さん
林 博司さん

Contact

江澤勇介さん　岡野高志さん

地元に暮らす若者の活動拠点に

●シェアキッチン&リビング　ケルン

岡野さんと江澤さんが中心となって運営するケルン。ここは自分の好きなことを表現できる1階のシェアキッチンと2階のリビングが1つになった空間です。ここで人と人、人と地域が繋がり、北本らしい共感が育まれることを目指しています。

1階のシェアキッチンでは、料理を提供したい人が日替わりや週替わりで、お店を運営。現在は金土日に「喫茶ケルン」がオープンしています。2階のリビングは写真スタジオやイベントスペースとして活用。「地元でやりたいことにチャレンジできる場所ができた〟と若い人に言ってもらえるとうれしいですね」と岡野さん。新しいことに挑戦したい人にチャンスと場所を提供し、北本市がさらに楽しくなるスポットが次々にできればと考えています。

DIYでリノベーションした居心地の良い空間。様々な年代の人が集う。

北本市中央1-109-105
https://www.instagram.com/_tsumiishi_/

Contact

団地に溶け込む居心地よい喫茶店

●北本団地　中庭

落合加奈子さん　落合康介さん

ジャズライブにふらりと訪れる人たちと楽しいひとときを過ごすことも。

行政とUR、無印良品の共同事業として始まった北本団地の再生プロジェクト。その第1弾として整備された団地内の住居付き店舗に東京から移住した落合さん夫妻。広くゆったり暮らせる場所を探していたときに、知人を通してこの場所を知ったそうです。いろいろな人が集まり、新しいことができる環境に魅了され、移住を決めました。

カフェで働いていた加奈子さんとジャズミュージシャンの康介さんがオープンしたのは、ジャズ喫茶。お店では通常の営業以外に生ライブを行うこともあると言います。空間的にも精神的にも余裕が生まれ、この場所を気に入っているという落合夫妻。「気軽に公園感覚で入ってもらえるようなところにしたい」という言葉通り、中庭は北本の心和むスポットとして注目されています。

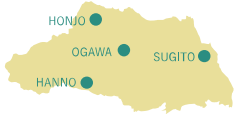
北本市栄7-1-26-102
https://www.instagram.com/nakaniwa_danchi/

Contact

きっと住みたくなる場所がある。

これも埼玉

訪れるたびに、新しい発見と出会いが待っています。



小川町

黒磯由起子さん　西沙耶香さん

NESTo（ネスト）
比企郡小川町大塚7-4
https://nesto.work/

Contact

まちのハブになる コワーキングロビー

2021年5月にオープンした『NESTo（ネスト）』は、「まちのロビー」をコンセプトにコワーキングスペースやアート、文化発信の拠点となる複合施設です。大谷石を使用した築100年の石蔵を改修して作られ、小川町だけでなく近隣エリアや関東近県からさまざまな人が訪れ、交流が生まれています。

運営する「NPO法人あかりえ」のメンバーの西沙耶香さん、黒磯由起子さんは、それぞれUターンや都内からの移住者。「仕事や暮らしの中でコミュニケーションが生まれる場にしたい」という思いで、気軽に人が集い、地域のハブとなる場を創っています。

飯能市

赤井恒平さん

AKAI Factory
飯能市柳町25-9
https://akaifactory.wixsite.com/home

Contact

個性豊かな作家が集う シェアアトリエ

AKAI Factory は2016年1月に地元・飯能市出身の赤井恒平さんが、実家の元工場を活用して生まれたシェアアトリエ。〝アートに関する場にしたい〟との想いに賛同したクリエイターや作家さんが集い、入居者自らがDIYで少しずつ改装しながら今のスタイルになっていったそう。

現在は8組のアーティストが入居。立地や条件が魅力だと、東京からわざわざ飯能に通い創作活動する作家もいるほど。毎年春と秋に展示会を開催しており、市外からも多くの人が訪れます。「飯能市は自分のやりたいことを実現するフィールドとして、チャレンジしやすい場所です」と赤井さん。

杉戸町

前列中央　矢口真紀さん

しごと創造ファクトリー ひとつ屋根の下
北葛飾郡杉戸町杉戸3-9-16
https://www.hitoyane.org/

Contact

自分とまちに 化学反応を起こせる場

2021年7月オープンの『ひとつ屋根の下』は、杉戸町の遊休公共施設を活用して生まれた拠点で、同町出身で2014年にUターンした矢口真紀さん率いる「choinaca合同会社（ちょいなか）」が運営しています。「まちの資源を活かして自分の仕事を創り、まちと関わっていくための実験の場」として、メンバーになると拠点を使ってお試し出店ができたり、定期的にイベントを開催したり、地域内外の人に活用されています。

「地域で自信を持って楽しく活動する人を増やし、まちを盛り上げたい」と取り組む矢口さん。杉戸町は、人やまちに化学反応を起こす人たちがじわりと増えています。

本庄市

早川純さん　榎本千賀耶さん

本庄デパートメント “WORK + PARLOR”
本庄市銀座2-2-1
https://www.instagram.com/honjo.department/

Contact

“ちょっと楽しい” 本庄市の魅力を発信

本庄あたりのまちでの暮らしを楽しくしたいと設立された『本庄デパートメント』。代表の榎本千賀耶さんと早川純さんの2人のほかに社会人メンバーが5人。7人の仲間で本庄市周辺での暮らす楽しさを発信しています。

2021年11月には、築100年の元料亭をDIYでリノベーションし、カフェ＋コワーキングスペースとしてオープン。近隣で解体される建物があれば、使える資材を引き取りに行き、〝古き良きもの〟を活かした空間プロデュースも行っています。「無理せず、暮らしが〝ちょっと〟楽しくなるような仕掛けをたくさんしていきたい」と、活動しています。

Pick Up ① 比企エリア

移住者が増えている注目エリアは若いパワーであふれています！

小川町

CURRY&NOBLE 強い女

比企郡小川町大塚171-7
https://www.instagram.com/tsuyoionna.curry/

Contact

とてもインパクトのある店名！「イベント出店でも大人気です。」と、代々木原シゲルさん。

新しいことに挑戦する！強い気持ちで人気のお店に

静岡県出身で、東京で音楽のプロデュースの仕事をしていた代々木原シゲルさん。仕事で日本各地へ足を運んだ経験から地方の魅力を知り、ゼロから新しいことができる場所を探していました。そんな時、埼玉県に仕事で訪れ、県内の都市部ではないエリアを知り、“何かができそうなところ”に惹かれ、移住を決意しました。

代々木原さんの決意に賛同した友人も一緒に移住することになったため、せっかく仲間と一緒ならば地域に根ざしたコミュニティを創ろうと決意。都心から電車のアクセスが良い小川町に移住しました。カレー屋の店舗は自分たちでリノベーションし、ほかにもシェアキッチンや移住を考えている人のためのシェアハウス、キッチンカーなどを運営しています。東武線と副都心線が繋がったことから、お店には休日になると横浜方面からも多くの人が足を運びます。「のんびり暮らすのもよし、新しい場所でなにかに挑戦するのもよし。自分なりのスタンスをもって、思いっきり移住生活を楽しんでいます！」と代々木原さん。そのパワーがたくさんの人々を惹きつけています。

名物の無水カレーは通販でも購入できます。

埼玉のちょうど真ん中、のどかな自然が広がる比企エリアは、都心からもっとも近い里山と呼ばれています。新たなコワーキング拠点やシェアアトリエなどには、若者や移住者が集まり、まちを盛り上げています。

- ●東京から車で約60分
- ●池袋駅から小川町駅まで電車で約70分

理髪店だったお店をカレー屋に。壁を塗ったり電気工事をしたり、ガス工事以外は自分たちでリノベーション。

写真右 小西隆仁さん

鳩山町

シェアアトリエ niu

比企郡鳩山町楓ヶ丘4-8-6
https://www.instagram.com/shareatelier_niu/

Contact

いま鳩山町が面白い！若者が仕掛けるアートな拠点

鳩山ニュータウンの一角にある戸建て住宅を舞台に、2021年4月に誕生したシェアアトリエniu（ニュウ）。そこに住みながらアートや建築、まちづくり等を表現していく場を運営しています。そんなniu誕生のきっかけを作ったのが、入居者のひとりでもあり、この住宅を借りている小西隆仁さん。大学院在学中、学生シェアハウス「ほとやまハウス」へ入居した縁で鳩山町に惹かれた小西さんは、卒業後もここに残りたいと定住を決意。niuの構想に辿り着いたそう。「鳩山町に来る人は面白い人ばかり。ここを拠点に色々実験したい」と意気込んでいます。

8月に開催された展示「絵の置かれたリビング」では、庭とリビングを大胆に使い建築とアートの世界を表現。

Pick Up hiki area

女将の高橋かのさん

小川町

小川まちやど ツキ

比企郡小川町大塚176-1
https://www.instagram.com/ogawa_machiyado2019/

Contact

穏やかな時間が流れる川沿いの「まちやど」

趣のある雰囲気でひっそりと佇む『小川まちやど ツキ』。1組限定の民泊として運営しており、まちへの移住を考えている人に、小川町での生活を体験してもらう場となっています。

女将の高橋かのさんは、大学4年生の時にインターンで訪れたことがきっかけで小川町へ移住し、現在、まちの魅力を伝えるために活動しています。「地域のみなさんと連携して、仲良く営んでいます」と話す高橋さん。ときどきお隣の魚屋『いずみや』さんに、宿の運営を手伝ってもらったり、地域の人々の温かさを感じながら、小川町を訪れた人に心のこもったおもてなしをしています。

以前は別荘として使われていた建物で、建具はそのまま再利用。2階の客間からは美しい川辺の風景を見ることができ、穏やかな時間を過ごせます。

Pick Up ② 秩父エリア

ラジオを通して人々が繋がり新しい試みも広がる

秩父市

パーソナリティを務める山中さん。取材に行ったり、企画を出したり、営業をしたりと忙しい日々を過ごす。

ちちぶエフエム

秩父市中町4-11
www.chichibufm.com

Contact

秩父の人がみんな知っている地元密着型のラジオ局を目指して

2019年10月に秩父市で誕生したちちぶエフエム。埼玉県では2番目に開局した地元密着型のコミュニティラジオ局です。パーソナリティとして活躍する山中優子さんは秩父市出身。熊谷市や東京で働いて地元に戻り、インターネットラジオで放送を始め、その後、多くの人の支援で開局に至ったと言います。

放送で流す音楽は寄贈してもらったCDを使っている。地域の人から多くのCDが寄贈された。

山々に囲まれ、独特の歴史や文化が色濃く残る秩父エリアは、関東でも人気の移住地となっています。新たに誕生したコミュニティラジオを起点に、秩父エリアを盛り上げる注目の人々を紹介します。

- 東京から車で約90分
- 池袋駅から西武秩父駅まで特急列車で約80分

「災害時に正しい情報を住民に伝える手段として、できることをやってみようというところからスタートしました」現在は朝7時から夜9時まで放送を行い、災害時には緊急放送を、普段は地元の企業やお店などに現地取材を行うなど、毎日生放送でホットな情報を提供。放送では秩父の方言も使い、地元の人からは「いつも聞いているよ」という声をかけてもらうなど、地域と密接に関わっています。3か月に1度『ちちぶFM Club MAGAZINE』という情報誌も発行し、100軒を超える地元のお店や企業を紹介しています。地域の人の暮らしが楽しくなる番組を放送し、秩父の人なら誰でも知っているラジオ局になることが目標だと言います。

ちちぶエフエムのある建物は市内の中心部。ここから外へ飛び出してリポートをすることも。

写真左 3代目の八宮悟さん

ちちぶFM オススメ！

小鹿野町

八宮松雪堂
（はちみやしょうせつどう）

秩父郡小鹿野町小鹿野1882
http://oganokoishi.jp/

Contact

地元のキーマンは老舗和菓子店のアイデアマン

小鹿野町にある老舗和菓子店、八宮松雪堂の3代目の八宮悟さんは地元では知られたアイデアマン。先代が40年ほど前に売り出した看板商品「小鹿野こいし」を、今の時代にあった形で紹介し人気を博しています。「表記を〝オガノコイシ〟にして、ステッカーなどのグッズも作っています」。また、SNSを使って老舗の味を広くPRするなど積極的に活動しています。「小鹿野町には良い意味で世話好きのおばちゃんもいて、期待通りの心地よい田舎ですよ」と八宮さん。地元・小鹿野町をよく知る八宮さんは気軽に地域の人々と触れあえる場作りを大切にしています。

Tシャツなどのグッズが充実。名前をインターネットで検索し、商品を知ってもらうというユニークなアイデア。

Pick Up chichibu area

ちちぶFM オススメ！

岩橋なつみさん

秩父市

ふるやい

埼玉県秩父市東町16-1
ハイランダーイン秩父 中庭離れ
https://www.instagram.com/furuyay_cb/

Contact

落ち着いた店内と素敵な庭！訪ねてみたい安らぎスポット

昨今、おしゃれなこだわりのお店が続々とオープンしている秩父市で、檜の廃材で作った家具や食器などを販売している「ふるやい」。岩崎なつみさんは結婚を機に移住してきました。「神戸出身でここに移住してくるまでは東京にいました」地元の人も好意的に受け入れてくれて、今ではこの環境がとても気に入っているそう。

満員電車に乗るような生活から離れたことでモチベーションも上がり、ブリティッシュパブ・ハイランダーイン秩父のシェフとして料理の腕をふるったり、月に何度かふるやいを開けるなど秩父ライフを楽しんでいます。

しっとりとした雰囲気の店内。一点ものの商品にはひとつひとつに違う表情があります。

器やカトラリーは作る日を分けていて、スプーンであれば一週間で約50本制作するそうです。

色をつけたり、模様をつけたり、真志さんオリジナルの発想が作品に込められます。

Contact

自宅gallery《Ūca》で
月2回のオープンデイ開催
※事前予約制

皆野町

木工作品を自然の中で制作しながら日々の穏やかな時間を家族4人で過ごしています。

卯田真志（うだまさし）さん　由香さん
黄之（きの）くん　実土（みと）くん

夫婦で木工工房を営む卯田さん。自宅とアトリエを繋ぐ庭は子どもたちの遊び場で、虫を捕まえたり木の実でおままごとをしたり、日々家族の時間を満喫しています。「自分の住みたい環境は、自分で作るのが楽しいです」。

皆野町で木工作家として活躍している卯田真志さん。移住前は家具工房で働いていましたが、木工の細かい技術を学びたいという思いから仕事を辞め、1年間訓練校に通い基礎を勉強した後、独立して秩父地域へ移住することを決意しました。秩父を選んだ理由を尋ねると、「東京のお店との付き合いもあるので、そこへ行きやすい距離で考えていて、そんな時に知人から秩父に物件があるよと聞いて…」と話す真志さん。秩父なら東京へのアクセスもいいので仕事で不便を感じることもなく、何より静かな環境がとても気に入ったそうです。

その後、奥さんの由香さんと出会い、現在の皆野町の家で暮らし始めました。家の内装は水回り以外自分たちでDIYしており、居心地の良い生活空間に仕上がっています。また、真志さんの作品を販売するために、月2回自宅をお店として開いており、その際は遠方から子連れのお客さんが訪れることも。自宅を開放する理由には、息子の黄之くんと実土くんを、たくさんの子どもたちと遊ばせたいという思いが込められています。

お父さん・お母さんが作品を見ている間は、家の中や庭を駆け巡って遊ぶ子どもたちだけの素敵な時間です。暮らしに必要なものがそろっていて、自然の中で子育てできる環境にとても満足しているそうです。

部屋を仕切る引き戸につけられた低い扉は、なんと船舶用。部屋の随所にこだわりが見られます。

お知らせ　卯田さん一家の暮らしと日常を人気YouTuber「古民家ひとり暮らし」さんに撮影いただきました。YouTubeの動画もぜひご覧ください！

もっと知りたい！

埼玉県の移住について

「住むなら埼玉」移住サポートセンター

東京都千代田区有楽町 2-10-1
東京交通会館 8 階
(認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター内)
☎ 090-1559-4781

住むなら埼玉！ 移住・定住情報

埼玉の移住情報を集めた HP です。住まい、子育て、仕事、移住者インタビューのほか、イベント情報も随時更新中！

saitama story プロモーション
埼玉暮らしの魅力、進行中のプロジェクトやイベント情報などをリアルタイムで発信。

saitama_story　saitama.story2019
saitama_story　LINE ID 住むなら埼玉（@489yflqq）

相談してみよう！

各市町の移住に関するご相談はこちらから！

長瀞町

長瀞町役場移住定住窓口

秩父郡長瀞町大字本野上1035-1
（長瀞町役場2Ｆ）
☎ 0494-66-3111（内線222）

行田市

行田市移住・定住相談窓口

行田市本丸2-5
（行田市役所企画政策課内）
☎ 048-556-1111（内線312）

秩父市

秩父市移住相談センター

秩父市宮側町1-7
秩父地場産センター5階
（秩父鉄道秩父駅直結）
☎0494-26-7946

小鹿野町

おがの移住相談窓口

秩父郡小鹿野町両神薄2906
（小鹿野町役場両神庁舎1階 総合政策課）
☎ 0494-75-1238（直通）

皆野町

みんなのみなの暮らし案内舎 移住相談センター

秩父郡皆野町皆野967-1
☎ 0494-26-6310（直通）

小川町

小川町 移住サポートセンター

比企郡小川町大字大塚1176番地5
☎ 0493-81-5331

鳩山町

鳩山町移住推進センター

比企郡鳩山町松ヶ丘1-2-4
（鳩山町コミュニティ・マルシェ内）
☎ 049-272-7528

体験してみよう！

県内お試し住宅のご案内

秩父市

お試し居住住宅「秩父杉の家　絆」

秩父市野坂町2-12-30
☎0494-26-7946
（秩父市移住相談センター）

ときがわ町

おためし住宅「やまんなか」

比企郡ときがわ町大字雲河原328
☎0493-65-0404
（ときがわ町役場 企画財政課）

皆野町

お試し居住用住宅「来てみ～な」

秩父郡皆野町大字皆野1643-5
☎0494-62-1462
（皆野町役場 産業観光課）

小鹿野町

お試し住宅

秩父郡小鹿野町飯田598-2
【平日】☎ 0494-75-1238
（小鹿野町役場総合政策課）
【休日】☎ 0494-26-6760
（おがの移住相談窓口［観光交流館］）

東秩父村

移住体験施設「MuLife」

秩父郡東秩父村大字奥沢234-1
☎ 0493-82-1254
（東秩父村役場 企画財政課）

表紙写真　キャンプ民泊 NONIWA
撮影　中村香奈子

編集・執筆　井上 幸
草野明日香
芦田 怜
須井直子

デザイン　熊谷昭典（SPAIS）
吉野博之
井上 唯

撮影　小松正樹
中村香奈子
赤井恒平
saitama story 編集部

saitama story vol.2

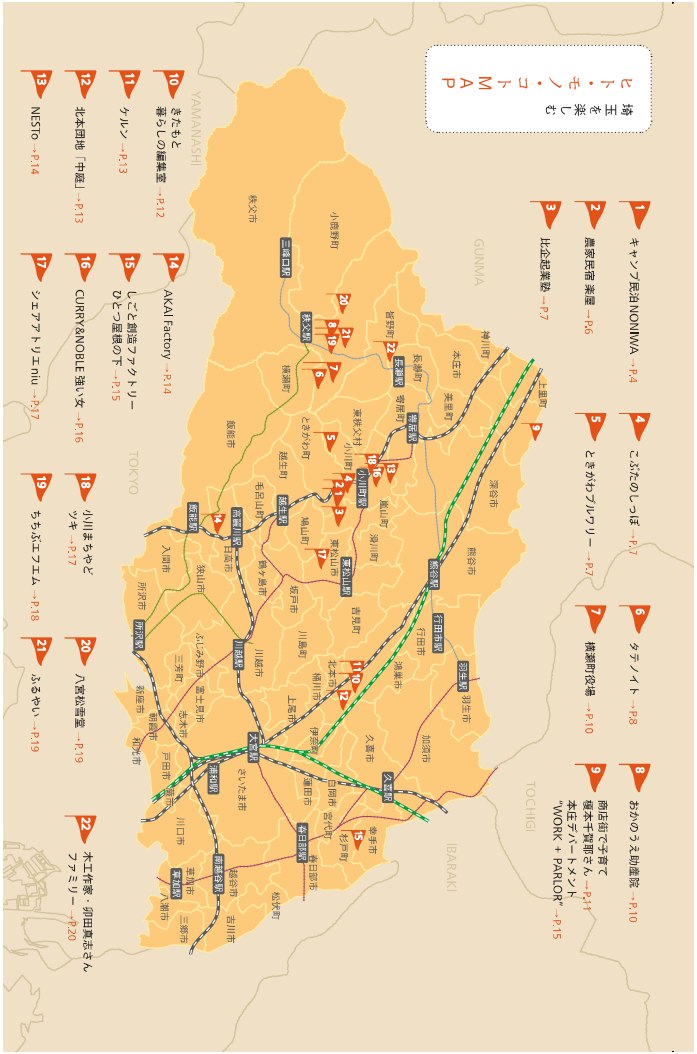
出会いたいひと、暮らしたい場所

令和3年11月30日　発行

制作　株式会社第一プログレス
株式会社櫻井印刷所

発行　埼玉県 企画財政部 地域政策課
さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL 048-830-2773　FAX 048-830-4741

彩の国 埼玉県

埼玉を楽しむ ピープル・ホテル・ショップ

1 キャンプ民泊NONIWA →P.4
2 農家民宿 兼屋 →P.6
3 比企起業塾 →P.7
4 こぶたのしっぽ →P.7
5 ときがわブルワリー →P.7
6 タテノイト →P.8
7 横瀬町役場 →P.10
8 おかのうえ助産院 →P.10
9 商店街で子育て 植本千賀恵さん →P.11
本庄デパートメント "WORK + PARLOR" →P.15
10 きたもと暮らしの編集室 →P.12
11 ケルン →P.13
12 北本団地「中庭」→P.13
13 NESTo →P.14
14 AKAI Factory →P.14
15 しごと創造ファクトリー ひとつ屋根の下 →P.15
16 CURRY&NOBLE 強い女 →P.16
17 シェアアトリエ niu →P.17
18 小川まちやど ツキ →P.17
19 ちちぶエフエム →P.18
20 八宮松雷堂 →P.19
21 ふるやい →P.19
22 木工作家・卯田真志さん ファミリー →P.20